

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日  
(2) 期末配当金 3月31日  
(3) 中間配当金 9月30日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して  
基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。  
但し、電子公告によることができない事故  
その他のやむを得ない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載いたします。  
◎公告掲載URL  
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
(〒100-8212)  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

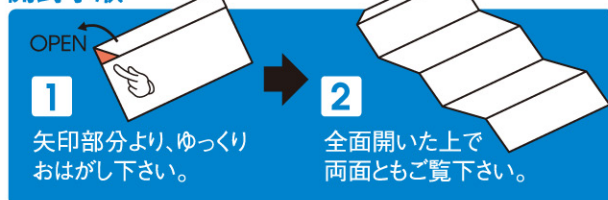
郵便物送付先及び  
電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
(〒137-8081)  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル **0120-232-711**

住所変更、配当金振込指定・変更、  
単元未満株式買取請求に必要な各用紙のご請求は

株主名簿管理人の  
フリーダイヤル **0120-244-479**  
※自動音声で24時間承っております。

## 開封手順



## 株式会社三菱ケミカルホールディングス

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)



株主の皆様へ

## 第3期 第1四半期のご報告

(平成19年4月1日～平成19年6月30日)

株式会社三菱ケミカルホールディングス

# 第1四半期業績の概況（連結）

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期（平成20年3月期）第1四半期の当社連結業績等につきまして、ここに「IR NAVI vol.6」をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、当第1四半期（平成19年4月1日～平成19年6月30日）における日本経済は、EUや東アジア経済の好調持続に伴う輸出の増加、高水準の企業収益を背景とした設備投資の増加や底堅い個人消費等により、引き続き緩やかな拡大基調で推移しました。

当社グループの事業環境につきましては、原燃料価格が高騰する状況にあったものの、国内外における堅調な需要に支えられ概ね良好でした。

このような状況下、当社グループの当第1四半期の売上高は6,650億円、営業利益は333億円、経常利益は368億円となり、当期純利益は206億円となりました。

なお、当社グループの三菱樹脂が、本年6月、ガス用ポリエチレン管等の販売価格の決定に関して、公正取引委員会から行政処分を受け、また、本年7月以降、塩化ビニル管等の販売価格の決定に関して、同委員会の強制調査を受けております。当社といたしましては、このような事態を招きましたことを、株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、厳粛に受け止め、グループ各社に対し独占禁止法遵守の再徹底を指示したところであり、今後もグループを挙げてコンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）の一層の徹底に努め、再発防止に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

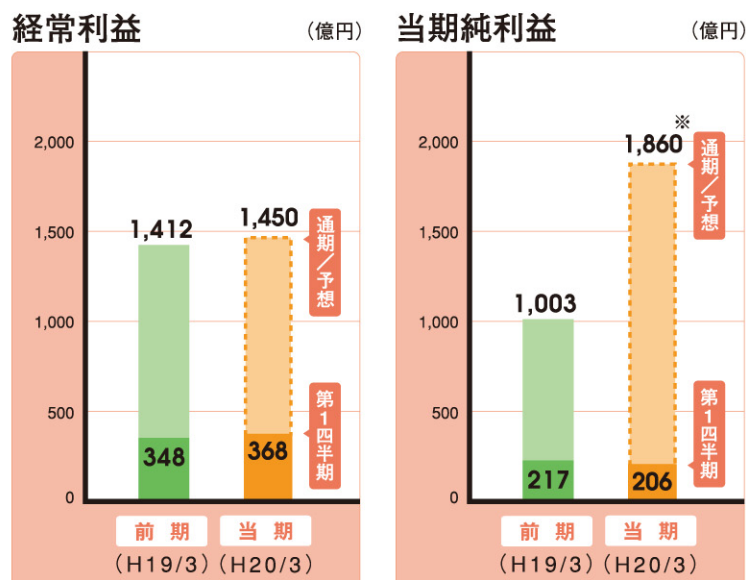
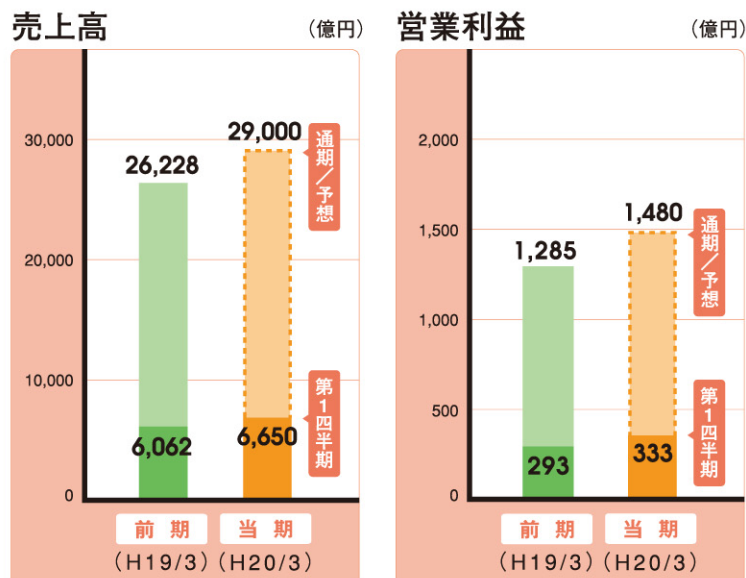
平成19年9月

取締役社長 **小林喜光**

**IRNAVI**

アイアールナビ

とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様にはナビゲーティング（道案内）していきたいという意味を込めております。



\*特別利益として、医薬事業再編に伴う持分変動差額1,180億円を見込んでおります。

## 配当の状況

	1株当たり配当金(円)		
	中間期末	期末	年間
平成19年3月期	7	7	14
平成20年3月期(予想)**	8	8	16

\*\*平成19年5月10日の決算発表時に公表したものです。



## 今後予定している当社グループの 事業再編について

### ・田辺三菱製薬の発足

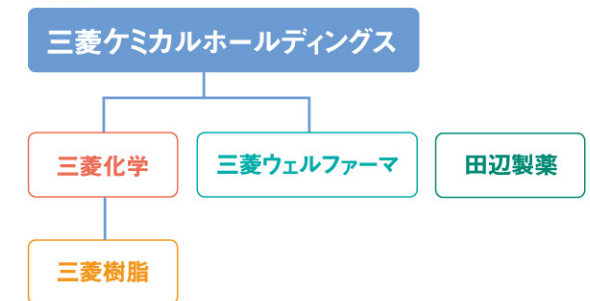
当社の完全子会社である三菱ウェルファーマは、本年10月1日付で田辺製薬と合併し、「田辺三菱製薬」という新社名のもと、上場会社として新たなスタートを切ります。新社は、当社が56%の株式を保有する当社の連結子会社となり、引き続き当社グループのヘルスケア事業の中核会社として事業展開を図ってまいります。

### ・三菱樹脂の完全子会社化

当社グループの機能材料分野の再編・統合に関する手続の一環として、当社は、本年9月20日付で三菱化学が保有する三菱樹脂の株式のすべてを取得した上で、本年10月1日付で当社を完全親会社、三菱樹脂を完全子会社とする株式交換を同社との間で実施します。これにより、三菱樹脂は当社の完全子会社となります。

### [当社グループの組織形態]

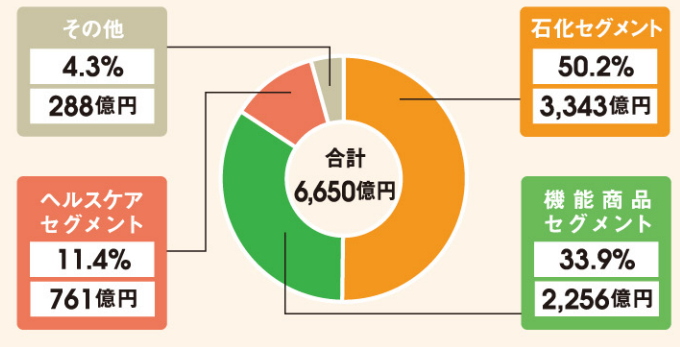
再編前



再編後(10月以降)



## セグメント別売上高の構成比



げは、前年同期並みとなりました。炭素事業は、国内の鉄鋼需要は堅調に推移したものの、コークス輸出価格が原料炭市況の下落に伴い値下がりがりしたため、売上は若干減少しました。

### ●機能材料

各種フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム向けを中心に好調に推移し、情報電子材料向け等の樹脂射出成型品並びに炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材及び建築材料は、順調に売上げを伸ばしました。

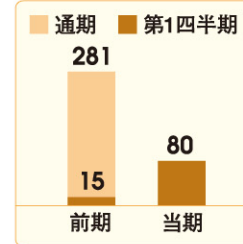
以上の結果、機能商品セグメントの売上高は2,256億円となり、営業利益は141億円となりました。

## 石化セグメント

石油化学部門の基礎素材であるエチレンの生産量は、前年同期並みの28万吨となりました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料及び合成樹脂の事業環境は、引き続き国内外の需要は好調に推移しましたが、原燃料価格は前期第3四半期から第4四半期にかけての軟化傾向から一転し、急激に高騰するという状況でありました。当社グループにおいても原燃料価格高騰の影響を受け、国内外の製品価格は是正に努めました。

以上の結果、石化セグメントの売上高は3,343億円となり、営業利益は、在庫受払差益の増加もあり80億円となりました。

営業利益 (億円)

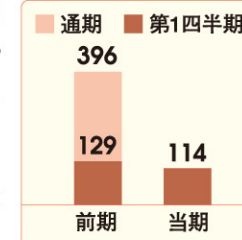


## ヘルスケアセグメント

医薬品事業は、抗血小板剤「アンブラグ」や脳保護薬「ラジカット注」等の主力医薬品が前期に引き続き堅調でした。臨床検査事業及び治験検査事業は、いずれも堅調に推移しました。

以上の結果、ヘルスケアセグメントの売上高は761億円となり、営業利益は、研究開発費等の販売管理費の増加により114億円となりました。

営業利益 (億円)



### HIV事件に関する社内調査委員会報告書等の公表について (三菱ウェルファーマ)

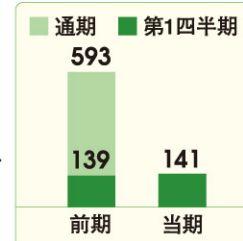
三菱ウェルファーマは、同社の前身会社の一つであるミドリ十字が関与したHIV(人免疫不全ウイルス)事件に係る株主代表訴訟の和解条項等に基づき、社内に設置した調査委員会において、ミドリ十字が当該事件の惹起を防止できなかった原因を調査検討し、薬害事件の再発防止策に関する提言を含む報告書を取りまとめました。同社は、本年9月、この報告書と上記提言を受けて検討した会社としての改善策を公表いたしました。これらについては、同社のホームページ(<http://www.m-pharma.co.jp>)をご覧ください。

## 機能商品セグメント

### ●機能化学

光ディスクは、販売価格が下落したものの、DVDの需要が引き続き好調であり、売上げは増加しました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料の売上

営業利益 (億円)





# トピックス

FY2007 1Q

## 当社グループのあるべき姿

～新中期経営計画策定に向けて～

本年度は、当社グループの中期経営計画「革進-Phase2」の最終年度にあたり同時に、来年度から始まる3か年の新たな中期経営計画を策定する年度となります。この新中期経営計画の策定に先駆けて、当社は、2025年の社会や経済の情勢等を予想し、当社グループのありたい姿を描き、そこから導き出される2015年の当社グループのあるべき姿を検討してまいりました。

2025年においては、地球環境や資源の限界が今まで以上に意識されるとともに、長寿高齢化が進むことにより、健康に対する関心がより一層高まり、また、BRICs\*を中心とした新興諸国が台頭し、化学品市場では世界的な淘汰が相当程度進むと予想しています。

こうした事業環境の変化を踏まえ、当社グループは、「快適」、「健康」、「環境」の3つのキーワードを基に、事業活動の方向性を収束させていきます。

### 2025年のありたい姿

#### 三菱ケミカルホールディングスの意志

無限の可能性と広がりを持つ「Good Chemistry」を基盤として  
世界のリーディングカンパニーでありたい  
社会からより信頼される会社でありたい

#### 3つのキーワード



2015年における当社グループは、以上の事業環境や事業活動の方向性を見据えた諸施策により収益力を強化し、世界をリードする欧米の巨大な総合化学会社に肩を並べる企業グループであることを目指します。そのためには、グループ全体で数多くのイノベーション（新商品の開発や新市場の開拓等を通じた革新）を横断的かつ複合的に実現していくとともに、優秀な人材を育成、確保していくことが重要であり、また、環境に対する関心がより高まる中で、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）削減につながる新製品・新プロセスの開発等の取組みを積極的に進めていくことも、企業価値のさらなる向上につながると考えています。

### 2015年のあるべき姿

#### 収益力において欧米のリーディング企業に肩を並べること

そのためには…

イノベーション（新商品の開発や新市場の開拓等を通じた革新）の実現

優秀な人材の育成・確保

CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）削減に向けた積極的な取組み

新中期経営計画では、こうした認識のもと、現在の石油化学、機能商品、ヘルスケアという事業の3本柱を堅持した上で、事業活動の方向性の3つのキーワード、すなわち「快適」、「健康」、「環境」に沿って、当社グループのあるべき姿の実現に向けた中期的な各種方針や具体的な諸施策を定めることとしております。光ディスクや蛍光体の開発などで培った『光と色』に関する技術を情報電子・IT分野で高付加価値な新製品の開発に生かしていくことや、診断・検査の技術を医薬事業で活用することにより、個々人の特性に合わせた『個別化医療』の実現に向けた研究開発を進めていくことなどがその例ですが、詳細は来年初めの発表を目標に現在策定中であり、後日ご報告させていただく予定です。

\* BRICs: ブラジル、ロシア、インド、中国の経済発展が著しい4ヵ国

## 株券電子化についての お知らせ

上場会社の株券の電子化については、平成21年1月からの実施を目標として準備が進められています。この株券電子化が実施されますと、株主の権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理されることになり、現在お手元にお持ちの株券は無効となります。

当社株券をお手元（自宅、資金庫等）にお持ちの場合は、次の事項を必ずご確認ください。

### 株券はご本人名義になっていますか？

※株券の裏側をご確認ください。

はい

手続は不要です

ただし、株券電子化後、株式を売買するには、証券会社に口座を開設し、株式の振替手続が必要になります。

なお、証券会社を通じて「証券保管振替機構」に預託されると、株券電子化後もスムーズに株式を売却することができます。

いいえ

名義書換が必要です

株主の権利を失う可能性があります。  
名義書換の手続については、早急に当社株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行 証券代行部（0120-232-711）にお問合せ下さい。

### 株券を証券会社を通じて 「証券保管振替機構」にお預けの場合

手続は不要です

株券電子化後も、これまでと同様にスムーズに株式を売却することができます。

「証券保管振替機構」についての詳細は、証券会社へお問合せ下さい。

ホームページアドレス

当社は、インターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。  
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>